

2022年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年5月13日

上場会社名 日本アイ・エス・ケイ株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 7986 URL <http://www.king-ind.co.jp/>  
 代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 曾根栄二  
 問合せ先責任者(役職名) 総務部長 (氏名) 小林勇司 (TEL) 029-869-2001  
 四半期報告書提出予定日 2022年5月13日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年12月期第1四半期の連結業績(2022年1月1日~2022年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年12月期第1四半期	1,537	△5.9	160	△42.9	171	△40.2	118	△41.2
2021年12月期第1四半期	1,634	10.1	280	321.1	287	308.9	202	364.1

(注) 包括利益 2022年12月期第1四半期 114百万円(△47.2%) 2021年12月期第1四半期 217百万円(580.4%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年12月期第1四半期	69.39	—
2021年12月期第1四半期	117.83	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年12月期第1四半期	5,546	3,698	65.6
2021年12月期	5,516	3,635	64.9

(参考) 自己資本 2022年12月期第1四半期 3,640百万円 2021年12月期 3,578百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年12月期	—	—	—	30.00	30.00
2022年12月期	—	—	—	—	—
2022年12月期(予想)	—	—	—	30.00	30.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年12月期の連結業績予想(2022年1月1日~2022年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,500	△0.3	400	△10.1	450	△6.3	300	△9.8	174.82

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
 新規 社(社名) 、除外 社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2022年12月期 1 Q	1,776,000株	2021年12月期	1,776,000株
② 期末自己株式数	2022年12月期 1 Q	61,770株	2021年12月期	61,770株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2022年12月期 1 Q	1,714,230株	2021年12月期 1 Q	1,716,575株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.2「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期連結貸借対照表	3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(会計方針の変更)	7
(セグメント情報等)	7
(重要な後発事象)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の感染再拡大により経済活動が抑制され、企業活動や個人消費等が低迷していることに加え、海外経済の不確実性や半導体の供給不足による経済活動への影響等、先行き不透明な状況が続いております。

このような状況のもと、当社グループは、積極的な営業活動に取り組み、技術開発力の強化、経費の削減等諸施策を展開いたしました結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高15億37百万円（前年同期比5.9%減）、経常利益1億71百万円（同40.2%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益1億18百万円（同41.2%減）となりました。

セグメントの業績を示すと次のとおりです。

鋼製品関連事業の売上高は4億34百万円（前年同期比5.5%減）、営業利益は99百万円（前年同期比27.8%減）となりました。耐火金庫では指紋・静脈認証耐火金庫に次いで最もセキュリティを強化した虹彩・顔認証耐火金庫の拡販に努めました。また、操作履歴機能付指紋認証キーボックス等高付加価値製品の販売促進等積極的な営業展開に努めましたが、販売実績は前年同期を下回りました。

デンタル関連事業の売上高は4億43百万円（前年同期比23.0%減）、営業利益は48百万円（前年同期比57.6%減）となりました。各種歯科用ユニット等の新規開発及び買替需要に対する営業活動等積極的に展開いたしました。販売実績は前年同期を下回りました。

書庫ロッカー関連事業の売上高（外部顧客）は6億2百万円（前年同期比13.9%増）、営業利益は59百万円（前年同期比27.2%減）となりました。札幌工場・川島工場の生産性向上、新規顧客の開拓推進等に努めました結果、販売実績は前年同期を上回りました。

不動産賃貸関連事業の売上高は33百万円（前年同期比11.8%減）、営業利益は25百万円（前年同期比13.8%減）となりました。

その他の売上高は23百万円（前年同期比27.0%減）、営業利益は6百万円（前年同期比43.7%減）となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の総資産は55億46百万円となり、前連結会計年度末に比べ29百万円増加しました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べ、現金及び預金の減少2億43百万円、受取手形及び売掛金の増加2億15百万円、電子記録債権の増加63百万円、原材料の増加22百万円等により、70百万円増加しました。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ、建物及び構築物の減少5百万円、機械装置及び運搬具の減少6百万円、投資有価証券の減少7百万円、退職給付に係る資産の減少25百万円等により、40百万円減少しました。

流動負債は、前連結会計年度末に比べ、支払手形及び買掛金の増加1億5百万円、未払金の減少90百万円、未払法人税等の増加55百万円、未払消費税等の減少39百万円、賞与引当金の増加1億13百万円、流動負債その他の減少1億22百万円等により、22百万円増加しました。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ、繰延税金負債の減少52百万円等により、55百万円減少しました。

純資産は、前連結会計年度末に比べ、利益剰余金の増加67百万円、その他有価証券評価差額金の減少5百万円等により、62百万円増加しました。

### (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2022年2月14日公表の業績予想に変更ありません。なお、業績見通しに変更が生じる場合には速やかにお知らせいたします。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

### (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,493,960	1,250,299
受取手形及び売掛金	1,343,781	1,559,727
電子記録債権	48,732	111,849
商品及び製品	100,895	115,161
仕掛品	19,842	17,953
原材料	104,696	126,801
その他	2,538	2,707
流動資産合計	3,114,447	3,184,500
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	324,170	318,403
機械装置及び運搬具（純額）	125,114	118,566
土地	980,731	980,731
その他（純額）	11,891	16,755
有形固定資産合計	1,441,908	1,434,456
無形固定資産		
ソフトウェア	2,961	2,733
無形固定資産合計	2,961	2,733
投資その他の資産		
投資有価証券	126,630	119,455
退職給付に係る資産	736,015	710,647
敷金及び保証金	94,523	94,523
その他	310	310
投資その他の資産合計	957,478	924,936
固定資産合計	2,402,348	2,362,126
資産合計	5,516,795	5,546,626

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	762,266	867,537
未払金	242,718	151,746
未払法人税等	52,823	108,810
未払消費税等	108,019	68,346
賞与引当金	56,975	170,926
その他	269,678	147,581
流動負債合計	1,492,483	1,514,950
固定負債		
繰延税金負債	284,175	231,819
役員退職慰労引当金	44,880	42,187
その他	59,547	59,547
固定負債合計	388,602	333,553
負債合計	1,881,085	1,848,504
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,090,800	1,090,800
資本剰余金	64,000	64,000
利益剰余金	2,447,106	2,514,605
自己株式	△67,042	△67,042
株主資本合計	3,534,863	3,602,362
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	43,432	37,685
その他の包括利益累計額合計	43,432	37,685
非支配株主持分	57,413	58,074
純資産合計	3,635,709	3,698,122
負債純資産合計	5,516,795	5,546,626

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年3月31日)
売上高	1,634,315	1,537,178
売上原価	1,082,656	1,072,265
売上総利益	551,659	464,912
販売費及び一般管理費	270,911	304,717
営業利益	280,748	160,194
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	1,092	1,428
作業くず売却益	4,282	10,119
その他	1,686	323
営業外収益合計	7,061	11,871
営業外費用		
手形売却損	108	76
営業外費用合計	108	76
経常利益	287,701	171,989
特別損失		
固定資産除却損	127	—
特別損失合計	127	—
税金等調整前四半期純利益	287,574	171,989
法人税、住民税及び事業税	118,927	101,473
法人税等調整額	△36,559	△49,845
法人税等合計	82,367	51,627
四半期純利益	205,206	120,361
非支配株主に帰属する四半期純利益	2,951	1,410
親会社株主に帰属する四半期純利益	202,255	118,951

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年3月31日)
四半期純利益	205,206	120,361
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	12,031	△5,746
その他の包括利益合計	12,031	△5,746
四半期包括利益	217,237	114,614
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	214,286	113,204
非支配株主に係る四半期包括利益	2,951	1,410



### (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

これにより、顧客への財またはサービスの提供における当社の役割が代理人に該当する取引について、従来は顧客から受け取る対価の総額を収益として認識しておりましたが、顧客から受け取る額から商品の仕入れ先に支払う額を控除した純額で収益を認識する方法に変更しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、当第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、当第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高及び売上原価がそれぞれ42,952千円減少しております。なお、利益剰余金の当期首残高への影響はありません。

また、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第1四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

#### 【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2021年1月1日 至 2021年3月31日)

#### 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結損 益計算書計上 額 (注)3
	鋼製品 関連事業	デンタル 関連事業	書庫ロッカー 関連事業	不動産賃貸関 連事業	計				
売上高									
1. 外部顧客への売上高	459,103	575,172	529,344	38,147	1,601,768	32,547	1,634,315	—	1,634,315
2. セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	7,923	828	8,751	—	8,751	△8,751	—
計	459,103	575,172	537,267	38,975	1,610,519	32,547	1,643,066	△8,751	1,634,315
セグメント利益	138,122	113,251	82,110	29,217	362,703	11,180	373,883	△93,135	280,748

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、工具の販売等を行っております。

- 2 セグメント利益の調整額△93,135千円は、主に各報告セグメントに配分していない全社費用であり、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
- 3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## 3. 報告セグメントの変更等に関する事項

該当事項はありません。

## II 当第1四半期連結累計期間（自 2022年1月1日 至 2022年3月31日）

### 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結損 益計算書計上 額 (注) 3
	鋼製品 関連事業	デンタル 関連事業	書庫ロッカー 関連事業	不動産賃貸関 連事業	計				
売上高									
顧客との契約 から生じる収益	434,005	443,048	602,714	—	1,479,769	23,761	1,503,530	—	1,503,530
その他の収益	—	—	—	33,647	33,647	—	33,647	—	33,647
外部顧客への 売上高	434,005	443,048	602,714	33,647	1,513,416	23,761	1,537,178	—	1,537,178
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	—	7,889	828	8,717	—	8,717	△8,717	—
計	434,005	443,048	610,603	34,475	1,522,134	23,761	1,545,895	△8,717	1,537,178
セグメント利 益	99,725	48,017	59,801	25,190	232,734	6,298	239,032	△78,837	160,194

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、工具の販売等を行っております。

2 セグメント利益の調整額△78,837千円は、主に各報告セグメントに配分していない全社費用であり、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## 3. 報告セグメントの変更等に関する事項

会計方針の変更に記載のとおり、当第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の算定方法を同様に變更しております。

当該変更により、従来の方法に比べて、当第1四半期連結累計期間の「デンタル関連事業」の売上高は42,952千円減少しております。なお、「デンタル関連事業」のセグメント費用が同額減少するため、セグメント利益に与える影響はありません。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項（セグメント情報等）」に記載のとおりであります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。